宙への道　―中国、インドをゆく―

A Road to Universe

松本　哲男
MATSUMOTO Tetsuo

物ではなくて、そこにある空気を描きたい。そして、それを感じるために旅に出るのです。

私はスケッチする時は、地べたに座ります。そうすることによって、大地の温もりを知り、また、自分の視点を地面に近づけるほど、空気の広がりを大きく感じることができるのです。

「自然」と静かに対話をするのが写生です。最初、風景は答えてくれない。ところが対話していくと、ここはこうやって造ったんだよとか、ここは昔こうだったんだよとか、自然が向こうから語りかけてくれます。

そんな気持ちにさせてくれるまでに、朝から描いて夕方までかかります。そして初めて、風景が自分のものになったような感じがするのです。

最初はヨーロッパの旅に出ました。絵に対する気持ちを確かめる旅でした。美術館を見て歩いたのですが、私の感覚にはどうしても合いません。違う世界のように感じられてなりませんでした。

そんな気持ちのあと中国へ行きました。そこには、あっ、これだ、というものがありました。人間の小さな世界ではなく、何千年、何万年の歴史、それを感じる遺跡があり、大地があって、これまで感じたことのなかったスケールの大きな空気があったのです。そこに座っているだけで、語りかけてくるものがありました。そこでは、自分がとても謙虚な気持ちで写生ができるのです。それは大発見でした。

そしてさらにインドでは、雑然とした人々の暮らしや悠久の大地から永遠を感じました。人間の生死を超越した、素晴らしいものがありました。

そのような自然にどっぷり浸かった感じになる時には、自分が点になり、その足元からずうっと描き出して、頭のてっぺんまで描き、その裏まで描いて、自然の中で自分を中心にした世界ができるのです。一つ一つ確かめながら、あなたはこうやっていますね、こうなのですね、というように、こちらが祈るような気持ちで何かを教えてもらう。そして最後に手を合わせて「ありがとうございました」という気持ちを味わえたのが、この中国とインドの旅で得た大き

な収穫でした。

これからも多くの旅をしたい。新しいものを感じたい、発見したい。その気持ちを絵に表現したい。その原点として自然との対話ができる写生があるのです。これを一生続けながら、究極の「地球」が描きたいのです。

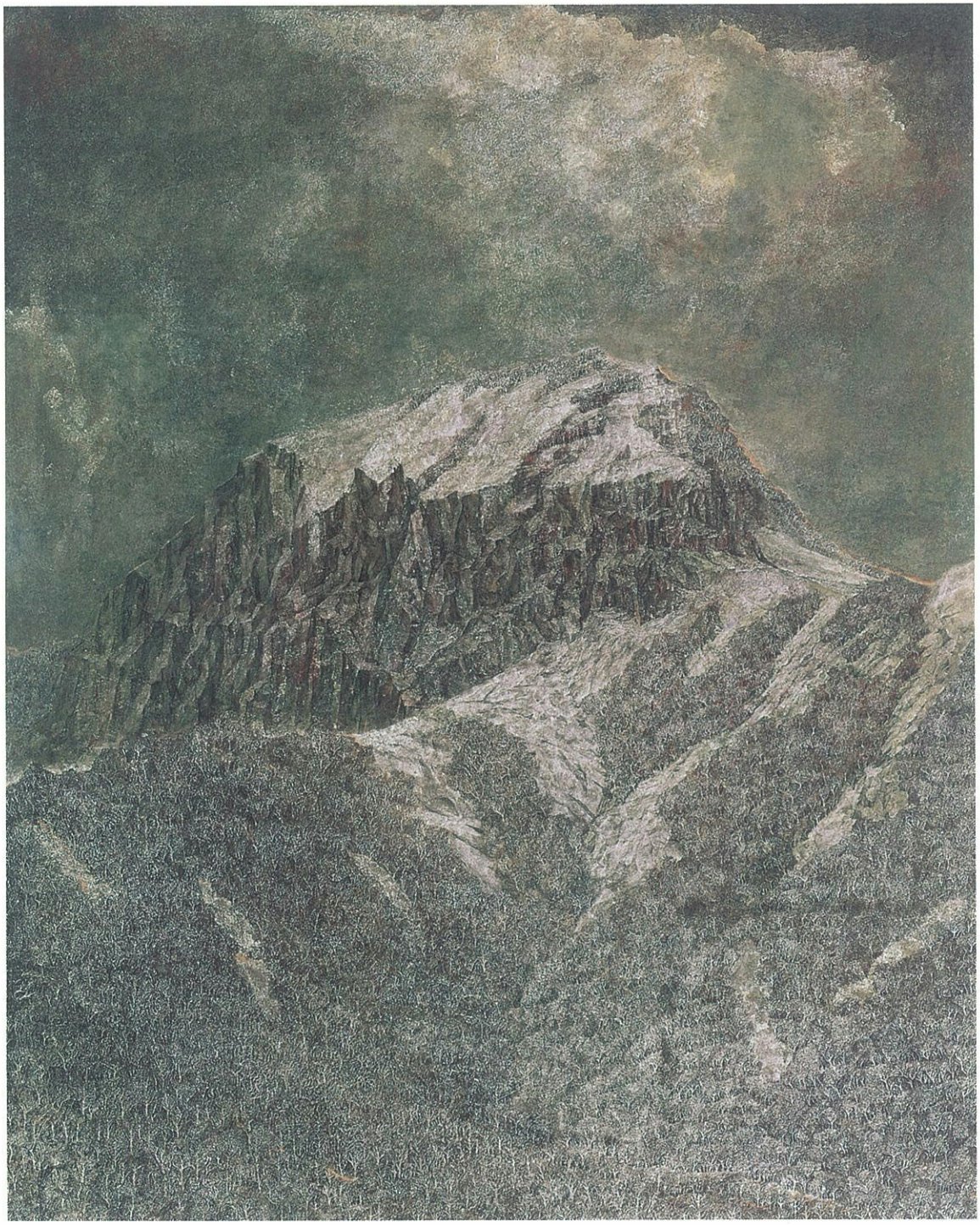
ラダック　Ladakh　1992年　216×522 cm　紙本彩色

スコットランドグレコー　Scotland,Glen Coe　1991年　172×364 cm　紙本彩色

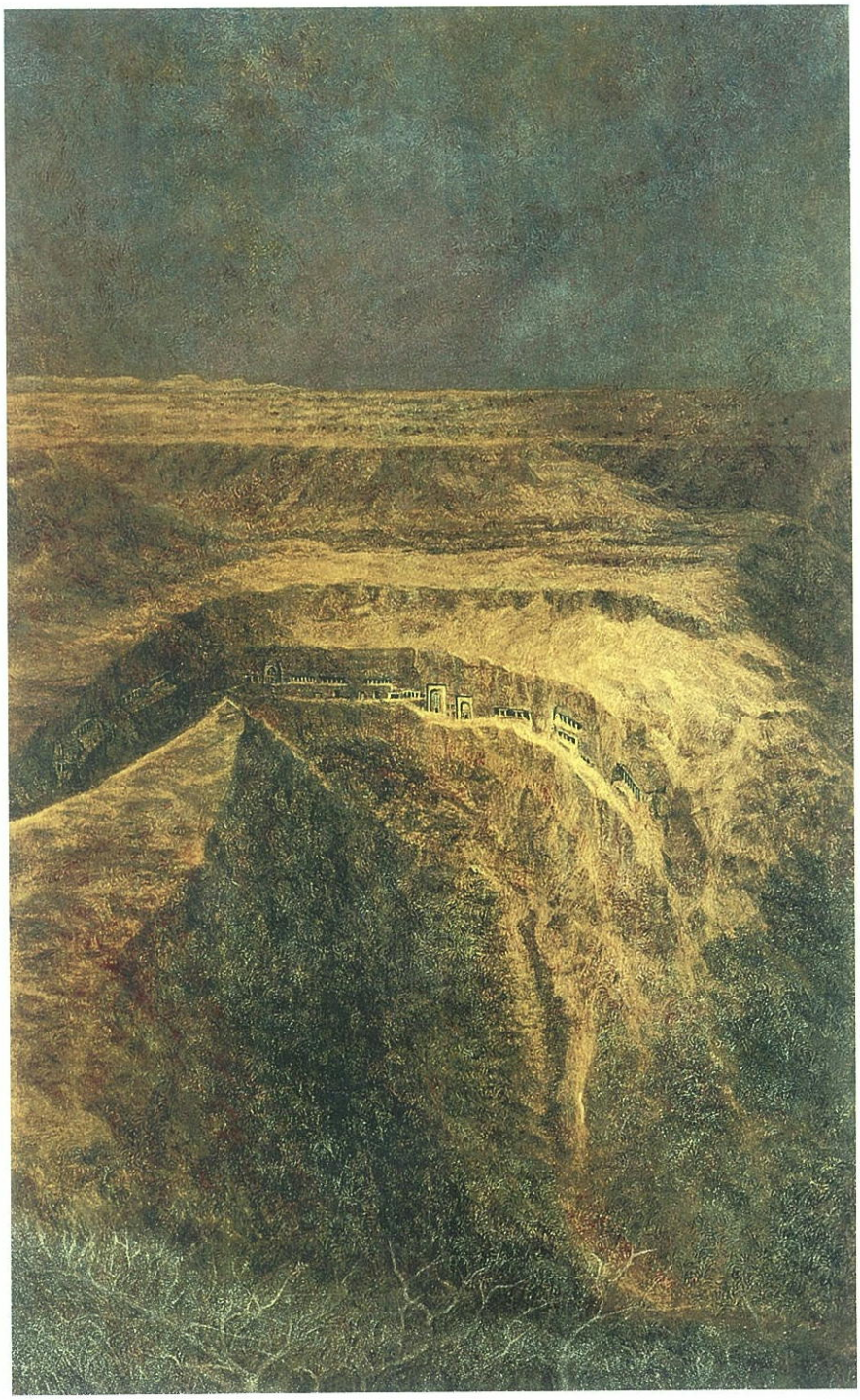
富士　Mt. Fuji　1992年　170×720 cm　紙本彩色

大同石佛　Tatung Stone Statue　1983年　220×174 cm　紙本彩色

苦業佛想　Seeking the Truth　1992年　145×97 cm　紙本彩色



巌　Mt. Konsei　1976年　225×180 cm　紙本彩色



アジャンター　Ajanta　1990年　175×115 cm　紙本彩色